

2017. 4. 11

JBA 審判部会

2P0 メカニクス確認事項

この確認事項は、最新のメカニクスと審判技術を FIBA の方向性にに基づき、国内審判員が共通の理解をもつことを目的として作成したものである。

1 ヴィジブル・カウント

1) スロー・インの際は行い、5sec に対応する。

2) その他については行わない。①8sec ②フリースロー

変更 2013 オフィシャルズ・マニュアル P88 III14 /P114 8.1.2

変更 2015 競技規則 P92 IV12

2 スロー・イン

P63 5.3

1) 原則として、L と T の Boxing-in を形成することを強く意識する。

2) 攻撃側のフロントコート・エンドラインからのスロー・インの時の L について。

①バックボードの左側からのスロー・インでは外側から渡す。

変更 P64 5.4.1

②バックボードの左側サイドライン近くのスロー・インでは内側から渡す。

③バックボードの右側からのスロー・インではトスあるいはバウンス・パスで渡し、T と boxing-in を形成する。

変更なし P65 5.4.2

④スローワーにボールを渡す前に笛を鳴らす(Warning whistle)。

3) ~~トレイルはリードのミラーし、タイムインもする(時計を止める合図をする)。~~

~~新規 P88 II 6, 8(計時の合図) (訂正)~~

スロー・インのボールを与えた審判は、ボールがコート内のプレイヤーに触れた瞬間にタイム・インの合図をする

3 T0 レポート

1) スコアラーが確認できる位置(距離)に移動してレポートを行う。

補助的に声を用いることで明確な伝達をする。

※FIBA は、スコアラーが確認できるのなら、距離は考慮しない方向である。しかしながら国内 2P0 で行われる公式試合について、T0 からよく見通せる位置で、しっかりと立ち止まってレポートを行うことで、トラブルを少なくすることが目的である。

4 フリースロー

1) L は次にフリースローが続く場合、フリースローレーンの一番エンドラインに近いリバウンドの位置とエンドラインの間に立つ。

変更 P116 8.2.4

2) L は最後のフリースローの場合エンドライン後方に立つ。

5 タイムアウト時

1) 次の再開の場所にボールを置く。

ただし、再開の場所がチームのベンチ付近であった場合は、チームの邪魔にならない場所を考慮して対応する。

新規

6 リード

1) 速攻の際、ショートカットを行いゴールの右側に位置する場合もある。

2) 必要があれば、Close down からタイミング良くゴールの右側のドライブを判断できる位置に移動しても良い。ただし、オートマティックに移動することはストレートラインを作ることになるので注意すること。また、動きながらの判定は避けなければならない。

※これは、L がゴールの右側に行ってはいけなく、ということはないことの確認であり、自動的に右側に行くことを推奨するものではない(この位置取りのリスク)。

また、No working area に立ち止まることは避けなくてはならない。

7 トレイル

1) 3PO の T と C の役割を持つことを意識する。

2) 従来の“T は横を確認する”という概念から“縦を確認するケースがある”ことを付け加える。

※これは、T の Primary の確認である。また Cross Step の習慣をつけ、3PO の C につなげる考え方である。

コート上の2人の審判(TとL)が Primary, Dual coverage, Second coverage を強く意識するとともに、Blind call や Cross call をせず正しい判断をするための位置取りをタイミング良くできるための工夫と努力をすることを忘れてはならない。

* 上記、確認事項を含め、プレゲーム・カンファレンス等で相手審判との共通認識をもってゲームに臨むようお願いいたします。